



# 日本の歴史に タイムスリップ!

Part3  
in 栗原小学校

こんにちは!ハナエモンこと花本隆資です。  
一昨年、昨年に引き続き、先日、広島県尾道市内の栗原小学校で6年生の子供達に歴史の授業をさせて頂きました。この栗原小学校、実は私の母校でもあります。そして現在、娘と息子が通っている小学校でもあり、今年は息子の前で授業をしてきました。また、大名で働いているスタッフ全員の子供達も通っている小学校なんです。  
1時間目は会社紹介と鎧・日本刀についてお話しさせて頂きました。  
「鎧と一言で言っても、沢山の形、色、材質の違いがあるんだよ。」  
「刀も長さ、形もそれぞれ違うんだよ。」  
「この兜は何をモチーフにして作られたか分かりますか?」と質問をするとみんな積極的に手を挙げて発言してくれて、本当に嬉しかったです。  
鎧・日本刀の説明を終えると、早速、実際に鎧・兜・日本刀に触れてもらいました。今年は火縄銃も持っていき、触れてもらいました。刀が入った拵を実際に両手で持たせてあげると、「重っ!こんなの振るの?」と大はしゃぎでした。レプリカの兜を被るコーナーでは今年も大行列になっていました。休憩時間もそのまま大興奮で見たり、触れたり楽しんでくれていました。続いて、昨年も盛り上がった歴史クイズをしました。昨年の経験を活かし、今年は歴史クイズの時間を多めにさせて頂きました。簡単な問題からマニアックな問題まで出し、子供達は○と×を移動するのに大騒ぎしていましたが**最後まで残った子供の数が、なんと「0」!**全員敗者復活をし、10人が最後まで残りました。家紋入りの手拭いと大名巾着のプレゼントをすると、とても喜んでいました。授業の最後に沢山の先人達のお陰で、古美術品・歴史的建造物を目、手に触れることが出来ます。次はみんなが次世代に紡いでいってくださいねとお願いをしました。そして、同じく沢山の先人達のお陰で、今の自分がいるので自分のこと、友達のことを大切にしてくださいと伝えました。



次のハナエモン候補選です!お待ちください!お楽しみに!



何の為にこの仕事をしているのだろうか?そんな事を考えた約10年前。子供達に**日本の歴史に興味を持ってもらう、好きになってもらう“きっかけ”**になる歴史の授業をいつか出来たら嬉しいなと思っていました。当日、子供達が目をキラキラさせて、鎧を見たり、触ったりしてくれている姿を見て、本当に嬉しかったです。これからも**“きっかけ”**となる授業をし続けていきたいと思っています。

# 届けますっ! 大和魂

2025年2月 Vol.64

## 経営理念

有限会社大名は「届けますっ!大和魂」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します



明けましておめでとうございます。花本隆資です。  
私の今年の一文字は「**一**」です。昨年は愉しむことを意識して過ごしてきました。仕事もプライベートも充実した一年間を過ごすことが出来ました。今年も有限会社大名として新たに挑戦することがあります。簡単に軌道に乗るとは思っていないですが、小さな一歩を積み重ねながら、大きな一歩だったなあと未来の自分が振り返られる様に邁進していきます。昨年は趣味のゴルフスコアを一打も縮められなかったため、今年は一打縮められる様に一打一打にも集中していきます。本年も宜しくお願い致します。



明けましておめでとうございます。中堀明美です。  
今年の一文字は「**虹**」です!!  
仕事で任された事や、日々の業務を「**虹**」のように多彩(多才)にこなしたいです。  
忙しいとついつい視野が狭くなってしまっているので...  
どんな色にも染まれる「**虹**」のように知識を高め、お客様に喜んで頂けるようなサービスをご提供出来る様に頑張りたいと思います。  
プライベートではカラフルに明るく何事にも楽しんで過ごせるようにしていきたいです。



こんにちは、島谷貴子です。  
昨年は「前進あるのみ!」と、突き進み何度も壁にぶつかっては乗り越えてきました。今年は乗り越えてきたことをしっかりと、自分の糧にしていきたいと思っています。  
失敗は失敗でなく、まだまだ成長を止めない人であり続けたいと思います。実になる一年にしていきたいと思っていますので、今年の一文字は「**実**」です。これからも思考を止めず、素敵なご提案をさせて頂きたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願い致します。

## お年玉プレゼント

弊社のお客様が過去に当選された賞品

同封の応募用紙に以下の項目全てご記入の上、Fax・メール・はがきにてご応募下さい。

- 1 クイズの答え
- 2 大和魂の正直な感想(酷評歓迎)
- 3 大名、大和魂へのご要望

※当選された方は写真を掲載させて頂きますのでご了承下さい。

今年はあなたに当たるかも!?

今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。 件名:ニュースレター返信と入力して送信して下さい。

最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>

有限会社 **大名** 広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp  
TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

こんにちは、島谷貴子です。毎日冷えますね。皆様お変わりはありませんか？

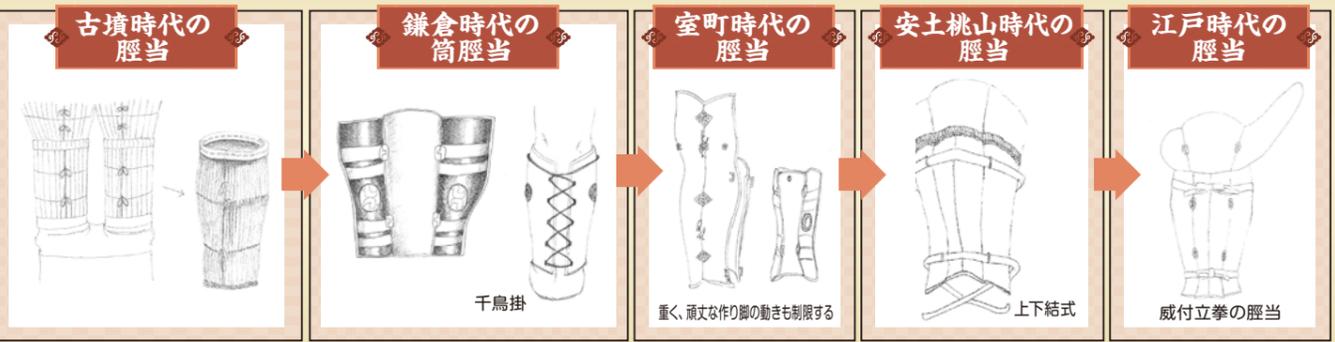
今号は前号に引き続き腕や手、脛を守る「籠手/佩楯/脛当」について語らせて頂きます。

# 語ります 大和魂

## 脛当とは？

足首の部分から、膝頭までを守る為の防具で、膝鎧とも呼ばれています。古墳時代の「武人埴輪」にも表現されており、古墳時代からあったとされています。平安時代では騎射戦が主だった為、大鎧の小具足として発達しました。脛の正面と左右を防御する「筒脛当」が一般的でした。正面と両側面の3枚の板を蝶番でつないで足を包み込み、足の後ろで紐を交差させる「千鳥掛」で装着します。騎馬戦から接近戦に変化していった、鎌倉後期から南北朝時代には、膝も守る「立拳」がついたものが流行してきます。室町時代までは大振りな立拳が作られることが多く、「大立拳」<sup>おおたてけん</sup>、「大立拳脛当」<sup>おおたてけんすねあて</sup>と呼ばれるものが作られていきました。しかし、膝までカバーする形には進化しましたが、ふくらはぎまで金具が届く形状ではなかったため、「臆病金」<sup>おくびょうがね</sup>という細い金属板を当てて、装着していました。敵に背を向けたときに初めて見える金属だったことから、その名が付けられたとされています。装着方法は、「上の緒」、「下の緒」と呼ばれる2本の紐を結ぶ「上下結式」へと変化します。千鳥掛よりも簡単に装着でき、南北朝時代以降になると、歩兵も着用するようになっていきます。

## 筒脛当~立拳脛当の変化



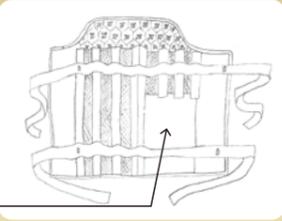
## 更に変化

戦国時代には、細長い板で仕立てた「篠脛当」<sup>しのすねあて</sup>や「鎖脛当」<sup>くさりすねあて</sup>が流行してきます。初めは粗末な仕立てで、軽量な下級武士向けの防具でしかなかったのですが、**装着が簡単！柔軟性に優れている！機動性を上げられる！**ため、当世具足で最も人気となっていきました。そして、高級な仕様の篠脛当も作り出され、大名が使っても問題ない格式を備えるようになっていきました。戦乱の世が終わり、江戸時代中後期になって復古調が流行すると、筒脛当が脛当の中心となっていきました。



## もう一つの特徴

「鉸具摺」という部分です。脛当を付けて騎乗すると、脛の内側が鎧の鉸具部分に当たって双方が傷むので、内側の板を四角くカットし、革または布に替えて、傷つくのを予防したと言われています。鉸具摺で最もよく見るのは生革に漆を塗った物ですが、「絵革」<sup>えがわ</sup>や「菖蒲草」<sup>しょうぶくさ</sup>などの図柄を表した物、金箔で型押し文様を付けた「金唐革」<sup>きんからわ</sup>を用いたものもあります。



戦の変化によって、脛当の形も変化していったことが分かりました。私は実際にレプリカを着てみて、鉄の立拳脛当はとて動きにくいなあ～と感じました。やはり軽さと機能性を持ち合わせ、かつ好きな文様を目立たせられる産脛当を発注したいなと思いました。皆様はいかがでしょう？次号もどうぞお楽しみください。



# タイムスリップ!



今年2026年の大河ドラマの主人公：豊臣秀長にちなんでNo2の武将に注目した記事にしていこうと思います。今号は徳川家康のNo2、この方にタァ〜イムスリップ!

# 本多正信



ほんだ まさのぶ (1538-1616年)

## 家康の敵に

祖父の代から松平家(後の徳川家)に仕える本多俊正の次男として生まれます。何年頃からか定かではありませんが、家康が幼少の頃から仕えるようになります。今川家の人質として家康が今川領に行く時も随行しています。その後、今川家から独立した松平家ですが、国内が分裂する三河一向一揆(1564年)が起こります。正信は自身の信仰を捨てきれず、家康の敵となってしまいます。一揆が平定されても正信は家康を裏切った事もあり、家来として戻る事は出来ませんでした。正確に家康の元に戻った時期は不明ですが、姉川の戦い(1570年)頃には家康の家来の取りなしもあり、再び仕える事が叶ったそうです。

## 「乱には軍謀を預かり、治には国政を司り、君臣の間、相遇すること水魚の如し」

家康が天下を取るまでに多くの戦をしていますが、その多くの戦において重要な献策を行なった正信。家康が事実上の天下人になった大きな戦が関ヶ原の戦いです。関ヶ原の戦いが起こった原因として、家康は豊臣秀吉存命中の決まり事を次々と破っていきます。五大老、五奉行に無断で諸大名への訪問、縁組など。これらの家康の行動から、天下取りに動き出したと危機感を感じた五大老の一人：上杉景勝が軍備の増強、築城を行います。それを家康が豊臣家への謀反の疑いあり!と追求をし、上杉征伐へと繋がっていきます。上杉征伐へと動き出した家康を見て、石田三成が挙兵し、関ヶ原の戦いへと進んでいきます。徳川家に味方する者、歯向かう者を明確にしたここまでの軍略を練っていたのが、家康と本多正信といわれています。時代は前後しますが、秀吉に家康が関東への領地替えをされ、江戸城、江戸の町の普請、町の経営を担ったのも正信です。そして、家康が征夷大將軍に就任する為に朝廷と交渉をしたのも正信です。天下平定後は、江戸幕府初期の基礎構築に貢献しました。隠居しても影響力の強い家康と秀忠の関係性が崩れないように調整をしていたのも正信でした。



正信は家康の寝所に帯刀をしたまま入れる許可もあったそうです。家康の三大好物と云われる「佐渡殿、鷹殿、お六殿」。鷹狩りと側室のお六の方、そして佐渡は正信の官位の名称です。そして家康が亡くなると正信は家督を嫡男に譲ると後を追うように2ヶ月後に亡くなりました。そんな正信ですが、徳川四天王、徳川十六神将として描かれていません。その理由は一度、家康を裏切り敵対したからか、武将として大きな武功を挙げていないにも関わらず、家康の側近として重宝された為家臣団からの嫉妬を一身に受けていた為でしょうか。他人の嫉妬を気にせず、家康に尽くした正信。二人で仲良くお酒を呑んでいそうですね。